

平成 24 年度「外部検定試験の活用による英語力の検証」

報告書

平成 25 年 3 月



## 目 次

1.	調査の概要	1
(1)	調査の目的	1
(2)	調査の対象とする生徒	1
(3)	調査事項及び方法	1
(4)	調査方式	1
(5)	調査日時	2
(6)	受験した学校数及び生徒数	2
(7)	調査結果の解釈等に関する留意事項	2
2.	英語力に関する調査結果の概要	3
(1)	スコアの結果	3
(2)	調査結果から見られる傾向と課題	4
(3)	指導改善のポイント	6
(4)	成績データ	9
3.	主な問題の分析結果と課題・指導改善のポイント	19
(1)	英語能力判定テストをベースとした試験	19
(2)	GTEC for STUDENTS をベースとした試験	29
(3)	授業アイデア例	46
4.	質問紙調査結果（生徒質問紙・学校質問紙）	55
(1)	生徒質問紙調査結果	55
(2)	学校質問紙調査結果	64
5.	英語力に関する調査結果及び質問紙調査結果の分析	85
6.	GTEC for STUDENTS のスコアと英語を学ぶ動機及び 英語の授業でしてみたい活動に関する分析	115
7.	参考資料	120
(1)	外部検定試験を活用した生徒の英語力調査の 分析・活用に関する検討委員会について	120
(2)	調査対象校一覧	122

# 1. 調査の概要

## (1) 調査の目的

「国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策～英語を学ぶ意欲と使う機会の充実を通じた確かなコミュニケーション能力の育成に向けて～」(平成23年6月30日 外国語能力の向上に関する検討会)において提言された内容を踏まえ、民間事業者により開発された試験等を活用し、生徒に求められる英語力や学習状況について把握・分析を行うとともに、それらの結果を指導の改善に活かすことにより、英語教育の戦略的な改善を図る。

## (2) 調査の対象とする生徒

調査対象校(218校)に在籍する高等学校及び中等教育学校後期課程の第3学年の生徒

## (3) 調査事項及び手法

### ① 生徒に対する調査：英語力に関する調査及び質問紙調査

英語力に関する調査は、以下の2種類の外部検定試験から教育委員会が任意に選択したものが実施された。

(A) 「英語能力判定テスト」をベースとした試験(公益財団法人日本英語検定協会)

(B) 「GTEC for STUDENTS」をベースとした試験(株式会社ベネッセコーポレーション)

### ② 学校に対する調査：質問紙調査

## (4) 調査方式

「平成24年度 英語力を強化する指導改善の取組」事業(文部科学省委託事業)を実施する45道府県教育委員会が選定した高等学校に対して調査を実施した。

※教育委員会による学校の選定は、平成24年度「英語力を強化する指導改善の取組」事業において当該教育委員会が策定する「英語教育改善プラン」等に基づいて行われる。そのため、本調査は統計的に抽出された学校に対する調査ではない点に留意が必要である。

※「平成24年度 英語力を強化する指導改善の取組」事業は、東京都及び大阪府を除く45道府県において実施されている。

## (5) 調査日時

平成 24 年 6 月下旬～9 月初旬のうち、調査対象校が希望する日

## (6) 受験した学校数及び生徒数

		英語能力判定テスト	GTEC for STUDENTS	合計
道府県数		5	40	45
学校数		21	197	218
生徒数	リスニング リーディング ライティング	4,916	46,602	51,518
	スピーキング	809	7,893	8,702
	生徒質問紙	4,919	46,368	51,287

## (7) 調査結果の解釈等に関する留意事項

本調査結果の解釈については以下の点に留意されたい。

- 本調査は、生徒に求められる英語力や学習状況について把握・分析を行うとともに、それらの結果を指導の改善に活かすことを目的としている。しかしながら、あくまで民間事業者により提供された試験を活用するものであり、必ずしも学習指導要領全体を網羅したものではないことなどから、調査の結果は、生徒に求められる英語力の一部分、また学校における教育活動の一側面に関するものである。
- (4) 調査方式でも述べたように、本調査は「平成 24 年度 英語力を強化する指導改善の取組」事業を実施する 45 道府県教育委員会が任意に選んだ学校を調査対象としており、統計的な処理を経た抽出調査ではない。
- 本調査は、2 種類の外部検定試験により実施されており、各々の出題形式、受験者や受験者数等が異なっている。
- 本調査において用いられた試験問題は非公開である。

本報告書は、「外部検定試験を活用した生徒の英語力調査の分析・活用に関する検討委員会」(P. 120～121)の委員各位の協力を得て作成した。

## 2. 英語力に関する調査結果の概要

### (1) スコアの結果

- 英語能力判定テストをベースとした試験
  - ・筆記及びリスニングテストの平均スコアは 680 点満点に対して 393.5 点であり、英検 3 級に相当する。また、英検準 2 級レベル以上と判定されたのは対象者の 32%であった<sup>1</sup>。なお、2011 年度に全国で英語能力判定テストを受験した高等学校 3 年生の全体平均スコアは 344.2 点である。
  - ・スピーキングテストは 1 校あたり 40 名程度の生徒(全受験者の約 16%)が、筆記テストの成績に応じて、2 級レベル、準 2 級レベル、3 級レベルの 3 種類のテストのうちの 1 つを受けた。合格レベルに達した割合は、2 級レベルが 81%、準 2 級レベルが 65%、3 級レベルが 88%であった。
  
- GTEC for STUDENTS をベースとした試験
  - ・リスニング・リーディング・ライティングテストの合計スコアはトータルスコア上限 810 に対して平均 452 であり、平均グレードは 4 であった (GTEC for STUDENTS の最高グレードは 7)。なお、2009～2011 年度に全国で GTEC for STUDENTS を受験した高等学校 3 年生の全体平均スコアは 461 である。
  - ・スピーキングテストは 1 校あたり 40 名程度の生徒(全受験者の約 17%)が必須問題からなる試験を受験した(加えて、そのうちの半数程度の生徒は任意問題についても解答した)。平均スコアはスコア上限 20 に対して 9.7 であった。

---

<sup>1</sup> 「国際共通語としての英語力向上のための 5 つの提言と具体的施策」(平成 23 年 6 月 30 日)等において、高等学校卒業段階で求められる英語力の目安として、英検であれば準 2 級～2 級程度と提示されている。これを受けて文部科学省が平成 23 年に実施した調査(※)によると、公立高等学校第 3 学年に所属している生徒のうち、英検準 2 級以上を取得もしくは英検準 2 級以上相当の英語力を有すると思われる生徒の割合は 30.4%である。

※平成 23 年度「国際共通語としての英語力向上のための 5 つの提言と具体的施策」に係る状況調査(調査基準日：平成 23 年 9 月 1 日)

## (2) 調査結果から見られる傾向と課題

### 全体的な状況

- ◇ 日常生活の身近な話題については、相当数の生徒が英語で理解したり表現したりすることができている。
- ◇ 自分の意見や経験などを複数の英文で書くことは、相当数の生徒ができている。
- ◆ 社会性のある話題について、英語で理解したり表現したりすることに課題がある。
- ◆ 限られた時間内に英文を英語のまま理解することに課題がある。
- ◆ 英文中の情報と同様の内容であっても表現が言い換えられたものを理解することに課題がある。

### リスニング

- ◇ 会話や英文中の断片的な情報を聞き取ることについては、相当数の生徒ができている。
- ◇ 日常生活の身近な話題に関する短い会話は、相当数の生徒が理解できている。
- ◆ 会話や英文の概要や要点を把握することに課題がある。
- ◆ 情報量が多い英文の内容を聞き取ることに課題がある。

### スピーキング

- ◇ 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度は、相当数の生徒が身に付けている。
- ◇ 英語らしい発音、抑揚、ストレスで音読することについては、相当数の生徒ができている。
- ◇ 聞き取った内容を復唱することは、数語レベルの短文であれば、おおよその生徒ができている。
- ◆ ストーリーを組み立てて説明することについて課題がある。
- ◆ 与えられた内容や質問に対して、自分の意見やその理由を述べることに課題がある。

### リーディング

- ◇ 基本的な単語の理解は、相当数の生徒ができている。
- ◇ 短い会話の流れを適切に理解することは、おおよその生徒ができている。
- ◆ ある程度の分量の英文から、目的に応じて必要な情報や考えなどを読み取る

ことに課題がある。

- ◆ 英文中の情報と同様の内容であっても表現が言い換えられたものを選び取ることに課題がある。

### ライティング

- ◇ 与えられたテーマに対する意見やその理由，自分の経験，具体例などを複数の英文で書くことについては，相当数の生徒ができています。
- ◆ 文章の構成を意識して書くことについては課題がある。
- ◆ 日本語とは異なる英語の語順に従って英文を構成することに課題がある。
- ◆ 同じ単語を繰り返し使用する傾向が見られ，多様な語彙や表現を用いて相手に効果的に伝わるように工夫することに課題がある。

◇…相当数またはおおよその生徒ができています<sup>2</sup>

◆…課題がある点<sup>3</sup>

---

<sup>2</sup> 「◇相当数が理解」は正答率 70%以上，「◇おおよそ理解」は正答率 60%前後

<sup>3</sup> 「◆課題がある」は正答率 40%未満，または成績中下位層の正答率が低いもの



### (3) 指導改善のポイント

#### 全体的な状況

- 日常生活の身近な話題に留まらず、社会性のある話題に対応できる指導の工夫・充実
  - ・ 社会性のある話題に関して意見を述べ、その理由も併せて表現できるよう指導することが大切である。例えば、授業において社会性のある話題を含んだ教材を扱い、そのテーマについて生徒に簡単な調査をさせ、成果を発表させたりするなどして、日頃から問題意識を持つように指導することなどが必要である。
  
- 聞いたり読んだりした内容を別の表現で言い換えながら伝える活動の工夫・充実
  - ・ 英文中の情報と同様の内容であっても表現が言い換えられたものについては適切に理解できていない傾向があることから、聞いたり読んだりした内容について、別の表現で分かりやすく言い換えながら伝える活動などを行うことが大切である。そうした活動の中で、多様な語彙や表現に触れたり、それらを使用したりするよう指導することも重要である。
  
- ある程度の分量の英文から、目的に応じて必要な情報や考えなどを聞き取ったり読み取ったりする活動の工夫・充実
  - ・ ある程度分量がある英文の聞き取りや読み取りに課題のある生徒が多かったことから、生徒が、英語を英語のまま理解したり表現したりすることに慣れるような指導の充実を図るとともに、生徒の実態等に応じて教材の分量、難易度、学習速度等に留意しながら、多様な題材を取り上げて、生徒が英語に触れる機会を充実させることが大切である。

#### リスニング

- 短い英文の聞き取りに留まらず、情報量が多い英文の概要や要点を聞き取る指導の工夫・充実
  - ・ 局所的な理解だけを求めるのではなく、複数の異なる情報を統合しながら英文全体の理解を深めていくことができるような指導が大切である。
  
- 特定の場面で用いられる表現の指導の工夫・充実
  - ・ 言語の使用場面を踏まえ、それらに特有な表現の意味や使い方が定着するように具体的な場面を設定した上で、英語を使う活動等を通して指導することが大切である。

- 必要な情報を聞き取る力を高める活動の充実
  - ・ 多様なテーマを扱ったリスニング教材を用いて、話の展開、概要、要点を把握できるように指導するだけでなく、各生徒が必要とする情報を特定して理解することができるように指導することも重要である。

### スピーキング

- 英語を適切に話す指導の工夫・充実
  - ・ 単語の発音、リズムやイントネーション等の音声的な特徴を捉えて適切に話すことができるようにする指導が大切である。
  - ・ 語句や表現、文法事項等の知識を実際に活用して適切に話すことができるよう指導が大切である。（知識の活用）
- 英語を聞いたり読んだりして得た情報や考えなどの概要や要点を相手に伝える指導の充実
  - ・ 聞いたり読んだりした情報について、その内容を口頭で要約したり、それに対する自分の意見に理由を含めて発表したりできるようにする指導が大切である。その際、即興で意見や感情等を伝えたり、聞き手や目的に応じて簡潔に話したりすることなどについても指導することが重要である。
- 論理的に話す指導の工夫・充実
  - ・ 賛否が分かれるような事柄について、多様な観点から考察し、理由を含めて意見を論理的に述べられるように指導することが大切である。その際、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝えられるように留意して指導することが大切である。

### リーディング

- 目的に応じて必要な情報を読み取る指導の工夫
  - ・ 学校での学習や活動、生徒の身近な暮らしや社会での暮らしに関わる場面に関するものについて、また本、新聞、雑誌など多様な媒体を通して、情報を得たり、それらの情報について考えたりすることが大切である。
  - ・ 生徒の理解の程度に応じて、単一要素から判断できるものや、複数要素が関わるもの、必要な情報が集中しているものや点在しているもの等を取り混ぜるなどの工夫をすることが大切である。
  - ・ 英文の種類（物語文、説明文等）に応じた読み方（話の展開、段落の構成等）について指導することも大切である。
- 英文を英文の語順のまま速く読み進めるための活動の充実
  - ・ 文章の全体構成をつかんだ上で、段落ごとの要点を把握できるように指導する必要がある。また、理解の速度を高めるために、一定の時間内にできるだけ多くの分量の英文を読む経験を積ませることが大切である。その中で、様々な表現方法

に触れることも重要である。

- 読み取った内容を別の言葉に言い換えて説明する活動の充実
  - ・ 読み取った内容の概要や要点を理解した上で、別の言葉に言い換えて説明することも大切である。

### ライティング

- 与えられたテーマに関してアイデアを連想する活動の工夫
  - ・ 英文を書く前に、どのような内容について書くのか、どのような構成で書くのが効果的であるかなどを考えるために、与えられたテーマについて、思いついた事象や考えを書き出すなど、できるだけたくさんのアイデアを出し、それらを整理した上で書く指導が大切である。
- 文と文のつながりや、文章構成を意識して書く活動の充実
  - ・ 「序論」(Introduction) ⇒ 「本論」(Body) ⇒ 「結論(まとめ)」(Conclusion) といった基本構成を意識させたり、「本論」の部分で複数の観点をを用いて書いたりできるよう指導することが重要である。
- 日本語の語順と異なる英語の語順の定着を図る指導の工夫・充実
  - ・ 日本語とは異なる英語の語順や文構造、主語の捉え方、修飾語句の位置関係等について指導することが大切である。

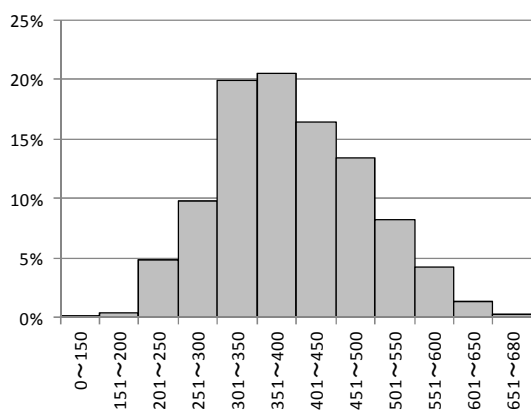
## (4) 成績データ

### 英語能力判定テストをベースとした試験

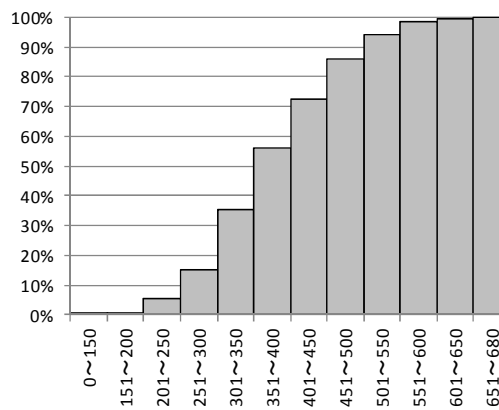
【筆記・リスニングテスト】

生徒数	学校数	平均英検レベル	平均スコア	平均正答数	平均正答率	平均スコアの95%信頼区間	中央値	標準偏差	最頻値	最高スコア	最低スコア
4916	21	3級レベル	393.5	41.4 / 80問	51.8%	390.8 - 396.1	381	95.0	378	680	0

スコア分布グラフ(横軸:スコア, 縦軸:生徒の割合)



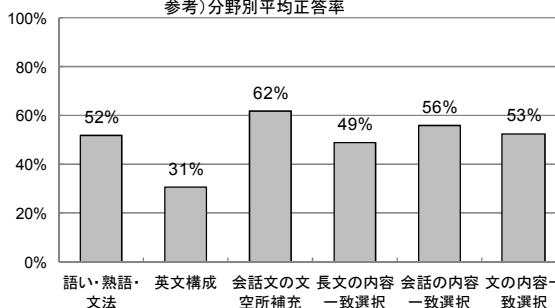
スコア累積グラフ(横軸:スコア, 縦軸:累積割合)



#### パート別集計結果

問題形式	設問数	平均正答率
話し・熟語・文法	30	52%
英文構成	5	31%
会話文の文空所補充	5	62%
長文の内容一致選択	10	49%
会話の内容一致選択	15	56%
文の内容一致選択	15	53%

参考)分野別平均正答率



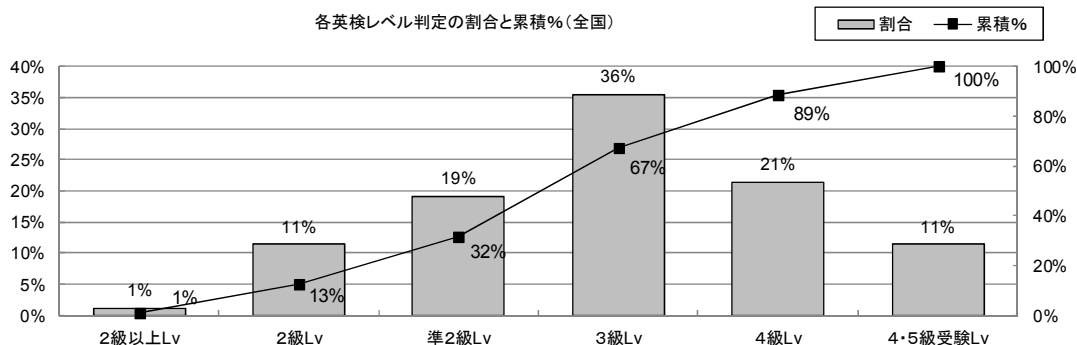
#### 英検レベル判定集計結果

生徒数	2級以上レベル	2級レベル	準2級レベル	3級レベル	4級レベル	4・5級受験レベル
4916	56	559	941	1748	1054	558

スコアと英検レベル判定の対応表

スコア	英検レベル判定
618~680	2級以上レベル
517~617	2級レベル
433~516	準2級レベル
343~432	3級レベル
282~342	4級レベル
0~281	4級、5級受験レベル

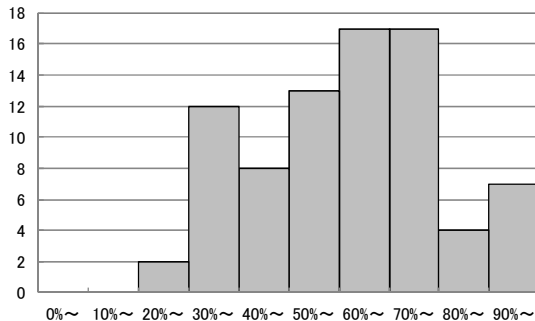
各英検レベル判定の割合と累積%(全国)



設問別の調査結果

設問番号	問題形式	出題の趣旨	正答率	無回答	設問番号	問題形式	出題の趣旨	正答率	無回答
1	筆記	語い・熟語・文法	84.4%	0.3%	51	リスニング	会話の内容一致選択	80.3%	0.5%
2			86.0%	0.3%	52			65.5%	0.6%
3			76.4%	0.3%	53			60.0%	0.8%
4			68.0%	0.3%	54			73.2%	0.6%
5			86.7%	0.4%	55			61.8%	0.7%
6			65.4%	0.4%	56			65.0%	0.7%
7			82.8%	0.5%	57			69.4%	0.6%
8			63.1%	0.5%	58			51.7%	1.0%
9			53.3%	0.4%	59			52.0%	0.8%
10			47.3%	0.5%	60			55.8%	0.7%
11			33.3%	0.8%	61			64.2%	0.8%
12			44.0%	0.7%	62			44.3%	0.8%
13			23.9%	0.7%	63			29.4%	0.9%
14			28.8%	0.7%	64			30.0%	0.7%
15			22.9%	0.8%	65			38.4%	0.6%
16			84.9%	0.6%	66			71.0%	0.8%
17			69.6%	0.6%	67			63.4%	0.8%
18			47.4%	0.7%	68			63.2%	0.8%
19			53.2%	0.7%	69			66.5%	0.8%
20			32.3%	0.7%	70			47.6%	0.9%
21			49.1%	0.8%	71			55.2%	1.0%
22			43.7%	0.9%	72			58.2%	0.9%
23			26.2%	0.8%	73			53.3%	1.0%
24			22.8%	0.9%	74			55.8%	1.0%
25			28.4%	1.0%	75			48.8%	1.0%
26			70.5%	0.8%	76			52.3%	0.9%
27			64.8%	1.0%	77			45.0%	1.0%
28			48.7%	1.0%	78			43.0%	1.2%
29			26.1%	1.2%	79			33.8%	1.1%
30			23.1%	1.1%	80			32.6%	1.2%
31	語句整序	英語での情報伝達において重要な要素である英語の語順を正しく構成できるかどうかを問う	51.7%	1.7%					
32			49.3%	1.7%					
33			22.2%	2.2%					
34			19.5%	3.2%					
35			11.3%	3.3%					
36	会話文の文空所補充	会話の流れを把握できるかどうかを問う。(適切な応答や適切な問いかけができるかどうか)	80.2%	1.5%					
37			52.6%	1.6%					
38			59.6%	1.8%					
39			57.4%	2.0%					
40		59.6%	2.1%						
41	長文の内容一致選択	まとまりのある英文の詳細について正確な理解を問う	68.3%	2.8%					
42			64.6%	2.9%					
43			60.7%	3.2%					
44			61.5%	3.7%					
45			55.8%	4.3%					
46			33.7%	5.5%					
47			29.0%	6.0%					
48			46.5%	6.5%					
49			32.7%	6.9%					
50			37.3%	6.9%					

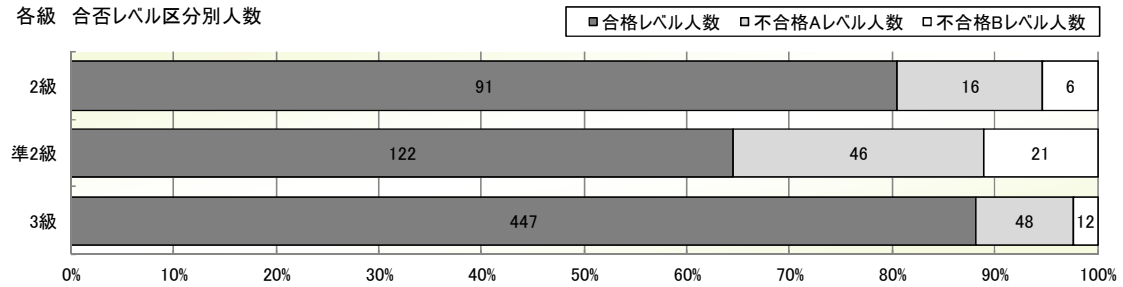
正答率別問題数(横軸:正答率, 縦軸:問題数)



【スピーキングテスト】

レベル	生徒数	平均得点	平均得点率	標準偏差	合格レベル人数	不合格Aレベル人数	不合格Bレベル人数	合格レベルの率
2級	113	22.5	68%	4.9	91	16	6	81%
準2級	189	20.2	61%	4.0	122	46	21	65%
3級	507	23.6	72%	4.2	447	48	12	88%

各級 合格レベル区分別人数

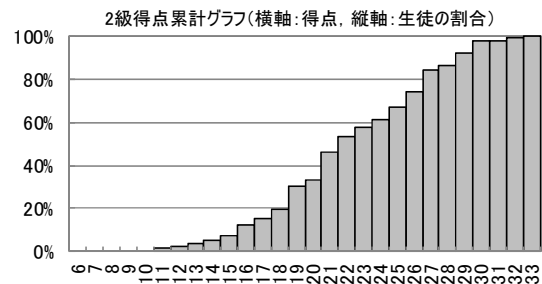
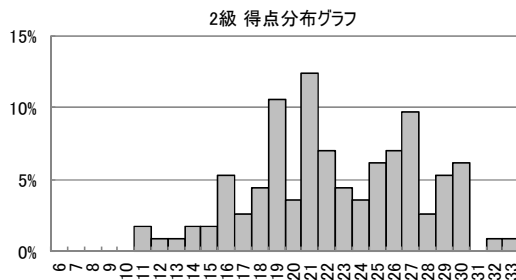


合格レベル区分について

合計得点	2級レベル	準2級レベル	3級レベル
33~19	2級合格レベル	準2級合格レベル	3級合格レベル
18~15	2級不合格Aレベル	準2級不合格Aレベル	3級不合格Aレベル
14~7	2級不合格Bレベル	準2級不合格Bレベル	3級不合格Bレベル

※実用英語技能検定二次試験の合格判定基準を参考にして、各級、合計得点により3つの合格レベル区分を設定しています。

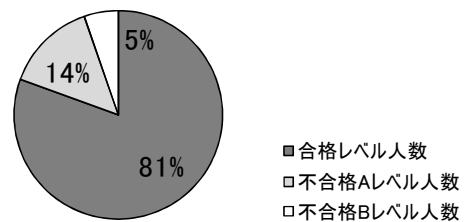
2級レベル



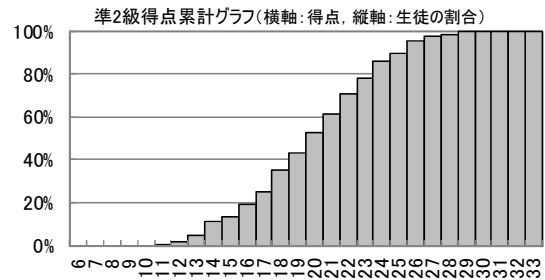
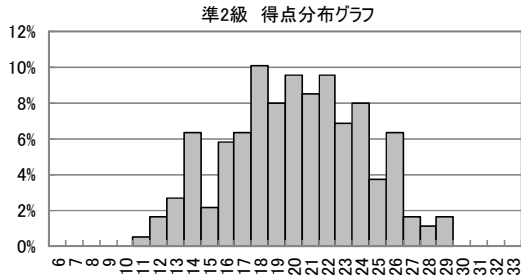
設問別の平均得点

	問題形式	配点	平均点
Reading	パッセージの音読	5	4.2
Q1	パッセージの内容理解	5	2.9
Q2-1	イラストの描写	5	3.5
Q2-2		5	3.4
Q3	自分自身についての質問 (意見と理由)	5	3.0
Q4		5	3.3
Attitude	コミュニケーションを図ろうとする態度	3	2.2

2級 合格・不合格レベル比率



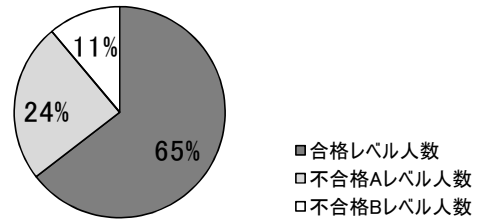
## 準2級レベル



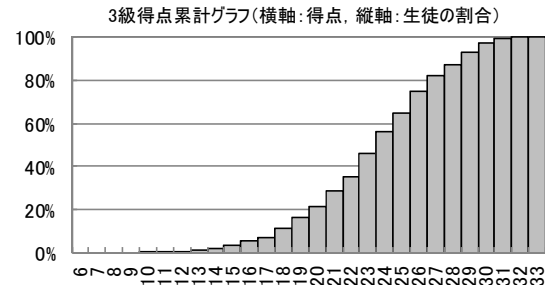
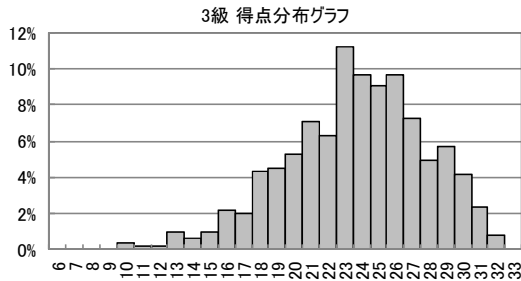
設問別の平均得点

	問題形式	配点	平均点
Reading	パッセージの音読	5	3.9
Q1	パッセージの内容理解	5	2.5
Q2	イラストに関する質問	5	2.6
Q3		5	3.3
Q4		5	2.7
Q5	自分自身についての質問 (意見と理由)	5	3.3
Attitude	コミュニケーションを図ろうとする態度	3	1.8

準2級 合格・不合格レベル比率



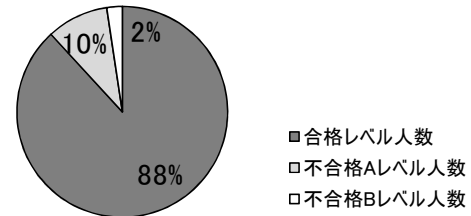
## 3級レベル



設問別の平均得点

	問題形式	配点	平均点
Reading	パッセージの音読	5	3.7
Q1	パッセージの内容理解	5	2.6
Q2	イラストに関する質問	5	3.5
Q3		5	3.8
Q4		5	4.3
Q5	自分自身についての質問	5	3.8
Attitude	コミュニケーションを図ろうとする態度	3	1.9

3級 合格・不合格レベル比率

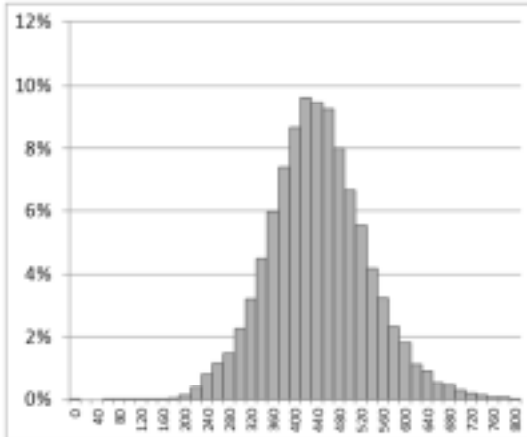


## GTEC for STUDENTS をベースとした試験

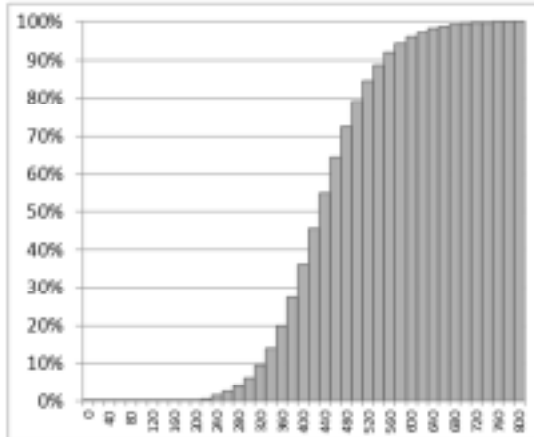
【トータル（リーディング、リスニング、ライティングの合計）】

生徒数	学校数	平均 グレード	平均 スコア	平均スコアの 95%信頼区間	中央値	標準偏差	最頻値	最高 スコア	最低 スコア
46602	197	グレード4	452.0/810	451.19~452.82	449	89.813	431	810	0

スコア分布グラフ（横軸：スコア、縦軸：生徒の割合）



スコア累積グラフ（横軸：スコア、縦軸：累積割合）



技能バランス

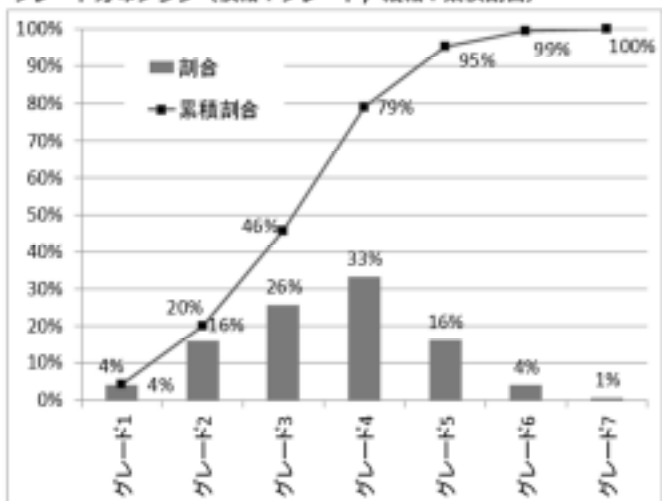
技能	グレード	スコア
トータル	グレード4	452.0/810
リーディング	グレード4	163.9/320
リスニング	グレード3	179.5/320
ライティング	グレード4	108.2/170
スピーキング (必須問題)	C層	9.7/20
スピーキング (必須・任意問題)	C層	12.2/24



グレード分布

グレード	人数	割合
グレード7	296	1%
グレード8	1910	4%
グレード5	7552	16%
グレード4	15558	33%
グレード3	11970	26%
グレード2	7403	16%
グレード1	1913	4%
合計	46602	100%

グレード分布グラフ（横軸：グレード、縦軸：累積割合）

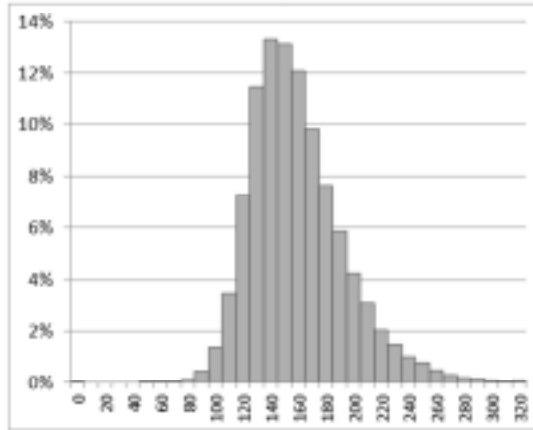




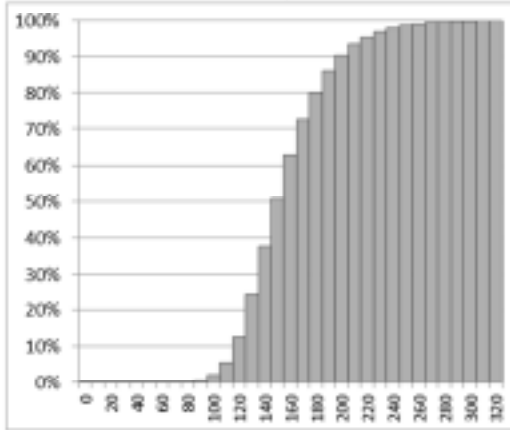
【リーディング】

生徒数	学校数	平均 グレード	平均スコア	平均正答数	平均 正答率	平均スコアの 95%信頼区間	中央値	標準偏差	最頻値	最高 スコア	最低 スコア
46705	197	グレード4	163.9/320	18.3問/43問	42.8%	163.71~164.33	159	33.966	150	320	0

スコア分布グラフ（横軸：スコア，縦軸：生徒の割合）



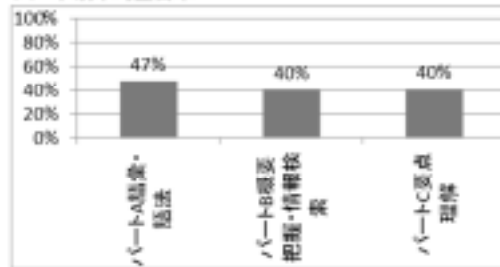
スコア累積グラフ（横軸：スコア，縦軸：累積割合）



パート別集計結果

パート	出題領域	対象設問数 (問)	平均正答率 (%)
パートA	読意・読法問題	14	47.2
パートB	概要把握・情報検索問題	14	39.9
パートC	要点理解問題	15	40.4

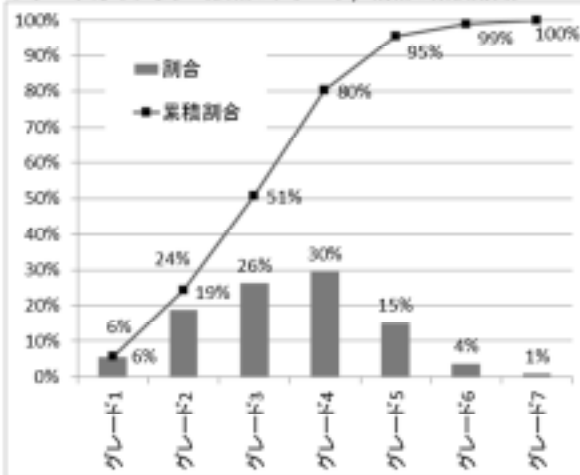
パート別平均正答率



グレード分布

グレード	人数	割合
グレード7	415	1%
グレード6	1738	4%
グレード5	7109	15%
グレード4	13800	30%
グレード3	12333	26%
グレード2	8755	19%
グレード1	2555	6%
合計	46705	100%

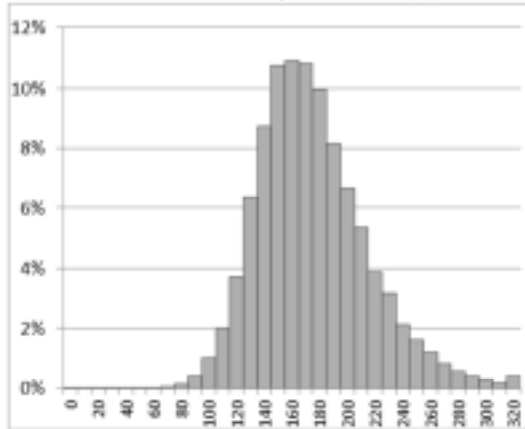
グレード分布グラフ（横軸：グレード，縦軸：累積割合）



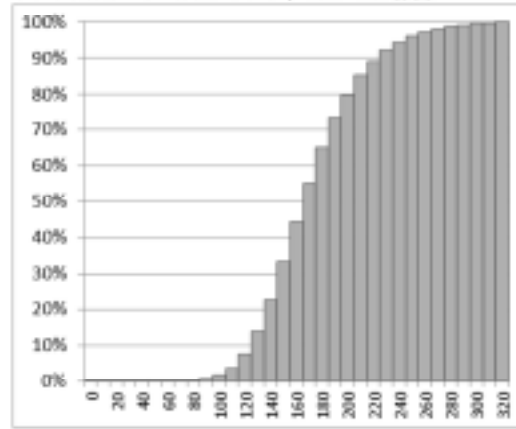
【リスニング】

生徒数	学校数	平均 グレード	平均スコア	平均正答数	平均 正答率	平均スコアの 95%信頼区間	中央値	標準偏差	最頻値	最高 スコア	最低 スコア
46658	197	グレード3	179.5/320	20.1問/40問	50.3%	179.13～179.85	175	39.754	170	320	0

スコア分布グラフ（横軸：スコア，縦軸：生徒の割合）



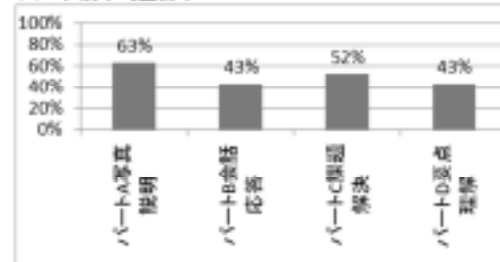
スコア累積グラフ（横軸：スコア，縦軸：累積割合）



パート別集計結果

パート	出題領域	対象設問数 (問)	平均正答率 (%)
パートA	写真説明問題	10	63.1
パートB	会話応答問題	10	42.9
パートC	課題解決問題	10	52.3
パートD	要点理解問題	10	43.1

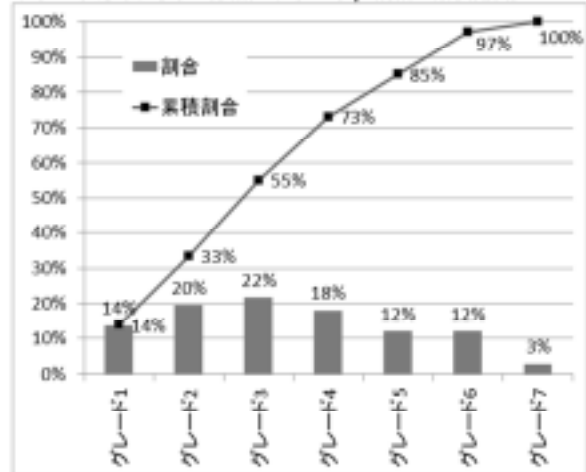
パート別平均正答率



グレード分布

グレード	人数	割合
グレード7	1303	3%
グレード6	5594	12%
グレード5	5618	12%
グレード4	8460	18%
グレード3	10148	22%
グレード2	9082	20%
グレード1	6455	14%
合計	46658	100%

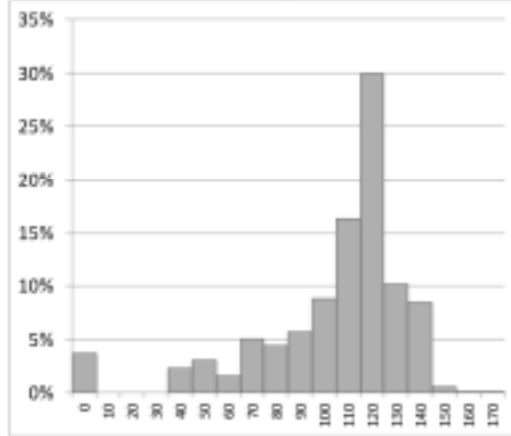
グレード分布グラフ（横軸：グレード，縦軸：累積割合）



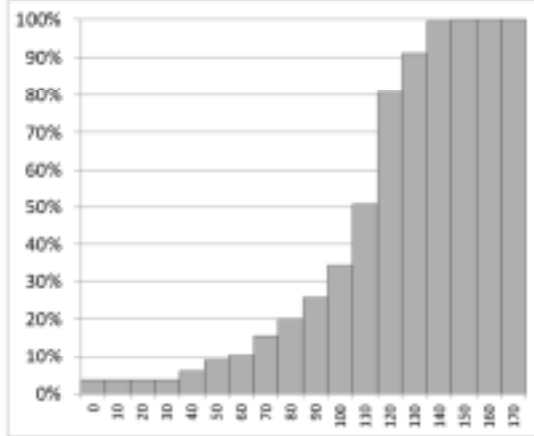
【ライティング】

生徒数	学校数	平均 グレード	平均 スコア	平均スコアの 95%信頼区間	中央値	標準偏差	最頻値	最高 スコア	最低 スコア
46779	197	グレード4	108.2/170	107.92~108.50	119	31.736	126	170	0

スコア分布グラフ (横軸：スコア, 縦軸：生徒の割合)



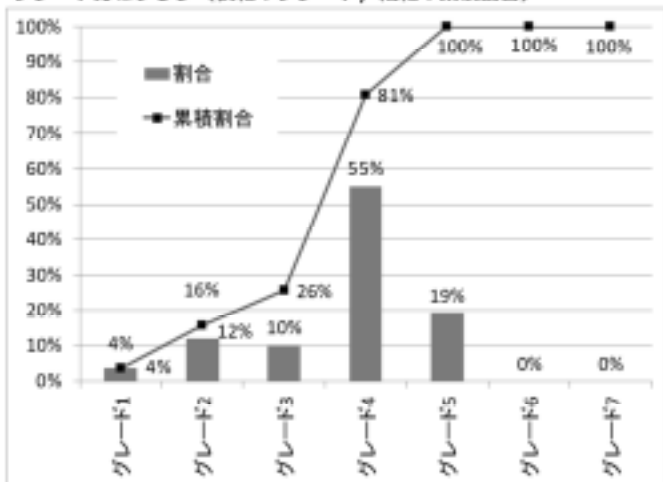
スコア累積グラフ (横軸：スコア, 縦軸：累積割合)



グレード分布

グレード	人数	割合
グレード7	7	0%
グレード6	13	0%
グレード5	8973	19%
グレード4	25765	55%
グレード3	4733	10%
グレード2	5550	12%
グレード1	1738	4%
合計	46779	100%

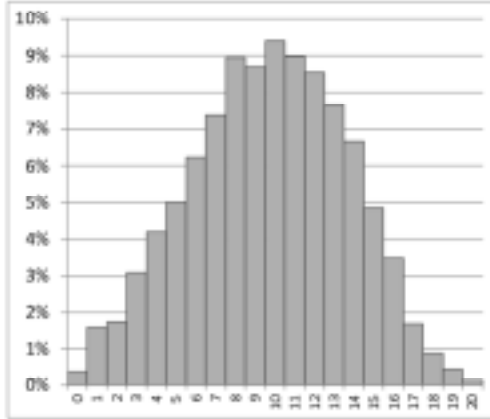
グレード分布グラフ (横軸：グレード, 縦軸：累積割合)



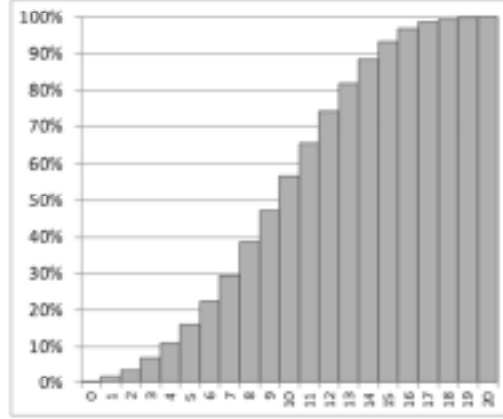
【スピーキング（必須問題）】

生徒数	学校数	平均スコア	平均スコアの 95%信頼区間	中央値	標準偏差	最頻値	最高 スコア	最低 スコア
7893	197	9.7/20	9.59～9.76	10	3.951	10	20	0

スコア分布グラフ（横軸：スコア，縦軸：生徒の割合）



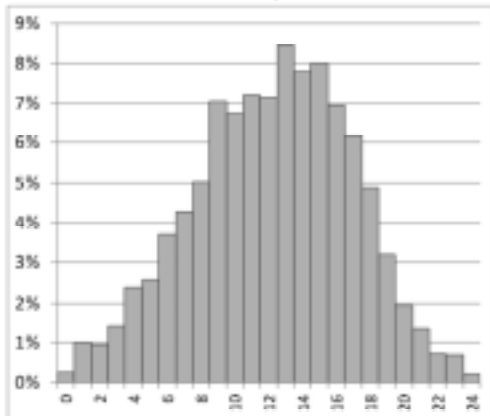
スコア累積グラフ（横軸：スコア，縦軸：累積割合）



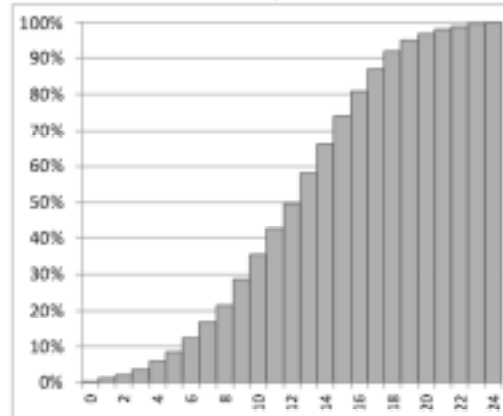
【スピーキング（必須・任意問題）】

生徒数	学校数	平均スコア	平均スコアの 95%信頼区間	中央値	標準偏差	最頻値	最高 スコア	最低 スコア
3767	105	12.2/24	12.09～12.39	13	4.679	13	24	0

スコア分布グラフ（横軸：スコア，縦軸：生徒の割合）



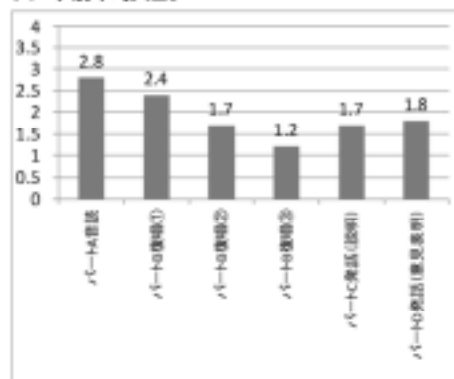
スコア累積グラフ（横軸：スコア，縦軸：累積割合）



パート別集計結果

パート	出題領域	対象設問数 (問)	平均スコア
パートA	音読	1	2.8
パートB	復唱①	1	2.4
	復唱②	1	1.7
	復唱③	1	1.2
パートC	会話(説明)	1	1.7
パートD	会話(意見表明)	1	1.8

パート別平均スコア



<表中で用いられる用語の整理>

・「平均スコアの95%の信頼区間」

サンプルが抜き取られた母集団の平均スコアを推定するにあたり、「信頼水準95%で平均スコアがこの区間に入る」と言える区間のこと。

・「標準偏差」

サンプルから得られたデータの平均値と個々のデータがどれくらい離れているかを示した値のこと。データのばらつき具合を見るために用いられる。

・「中央値」

サンプルから得られたデータを小さい方から順番に並べたときに、真ん中に位置する値のこと。

・「最頻値」

サンプルから得られたデータのうち、最もよく出現する値のこと。

### 3. 主な問題の分析結果と課題・指導改善のポイント<sup>4</sup>

#### (1) 英語能力判定テストをベースとした試験

英語能力判定テスト 筆記・リスニングテスト 1

#### 趣旨

日常生活の身近な話題への対応から、より抽象性のある話題に対応する上で求められると考えられる語い・熟語・文法の知識を問う。

**出題形式の見本** ※今回分析している問題とこの見本問題の内容は関係ありません。

( )に入れるのに最も適切なものを1,2,3,4の中から一つ選びなさい。

Ken bought an English-Japanese dictionary ( ) is useful for beginners.

1 who                    2 which                    3 what                    4 whose

<sup>4</sup> 分析の対象となっている問題は、正答率が低かったもの及び分析することにより指導改善に役立つものという観点から選定された。なお、スピーキングテストについては、調査対象校等の英語教員を試験官として対面式で実施したことから、結果と課題の詳細な分析が困難であったため、今回の「主な問題の分析結果と課題・指導のポイント」の対象としていない。

## 分析結果と課題(英語能力判定テスト 筆記・リスニングテスト 1 No. 26)

- 本設問は、関係代名詞の基本的な用法を問う問題である。正答率は70%で比較的良好にできていることから、関係代名詞の基本的な使い方を多くの学習者が理解していたことがうかがわれる。しかし逆に言えば、このような基本的な用法についてほぼ30%の学習者が正解できなかったということを意味しており、これは関係代名詞に留まらず、英語の大きな特徴の一つである後置修飾の理解が影響している可能性がある。

### 学習指導に当たって

- 英語では先行する語句をその後ろから修飾するといういわゆる後置修飾があり、これは日本の英語学習者にとって難しい点の一つである。このような形の典型例が関係代名詞であるが、後置修飾は様々な形(現在分詞, 過去分詞等)で現れるので、それぞれの形の後置修飾が適切に使えるように学習者に指導することが大切である。

趣旨

会話の流れを把握できるかどうかを問う。(適切な応答や適切な問いかけができるかどうか。)

**出題形式の見本** ※今回分析している問題とこの見本問題の内容は関係ありません。

次の会話について、( )に入れるのに最も適切なものを1,2,3,4の中から一つ選びなさい。

A: Hi, Linda, you look tired today.  
B: Yeah, I stayed up late last night reading.  
A: Oh, I always do that, too.  
B: ( )  
1 I went to bed early.  
2 I have no time to read books.  
3 I'll try to go to bed early tonight.  
4 I heard that's a good book.



### 分析結果と課題(英語能力判定テスト 筆記・リスニングテスト ③ No. 40)

- 本設問は、友人同士の会話において、空所に入れるのにふさわしい表現を選ぶ問題である。正答率は59%であった。比較的身近な題材にも関わらず、正答率がそれほど高くなかった理由として、会話の部分的なところだけで判断して解答した可能性が高い。選択率の高かった誤答は、部分的にはやりとりが成立しているように見えるが、会話全体の情報を合わせて判断すると正解とはならない。

### 学習指導に当たって

- 会話でのやりとりでは、いつも同じようなパターンで繰り返される可能性の高いもの(例：挨拶等の定型表現)と、その状況によって対応の表現が変わるものがある。このような違いは、やりとりの一部分だけにとらわれていると見誤る可能性がある。局所的な理解だけで判断するのではなく、会話全体の流れを理解するように指導することが大切である。

趣旨

まとまりのある英文について理解を問う。

出題形式の見本 ※今回分析している問題とこの見本問題の内容は関係ありません。

次の英文を読み、質問に対して最も適切なもの、または文を完成させるのに最も適切なものを1,2,3,4の中から一つ選びなさい。

### *Sleep and Dreams*

Did you know that though we spend about one-third of our lives sleeping, scientists are still not sure why we need to sleep? Research shows that our body can repair itself when we are lying down and watching television, for example. Scientists also say that our bodies can work fairly well without sleep for nearly 60 hours. And yet, we all know that if we don't sleep we can't think very well and are unable to have a meaningful conversation.

Sleep, according to scientists, is actually a very complicated process. During an average night, we pass through as many as seven sleep states. In addition, we will probably change our body position at least as many times as we change sleep states. One of the most important sleep states is called REM, or Rapid Eye Movement. In fact, about 20% of our total sleeping time is spent in REM. It is during this time that we dream.

Though scientists are still not sure why we dream, they all agree that, at least sometimes, we need to dream. Some scientists think that when we dream, the brain decides what information to keep and what to throw away. Others believe that while we dream, the brain tries to find new answers to our problems. Since a third of our lives is spent sleeping, it is good to know that the time is not wasted.

**According to the passage, we may dream for the purpose of**

- 1 trying to forget our problems.
- 2 resting our bodies completely.
- 3 keeping and throwing away information.
- 4 collecting and remembering all information.

## 分析結果と課題(英語能力判定テスト 筆記・リスニングテスト 4 No. 47)

- 本設問は、まとまりのある英文について理解を問う問題である。正答率が29%と低い問題であった。その理由としては、正解を選ぶためには段落全体を読まなければならなかったことや、不正解の選択肢に本文中のキーワードが使われていたため、多くの受験者がそれらを選んでしまったことが考えられる。

### 学習指導に当たって

- まとまりのある文章を適切に理解するためには、個々の文の理解だけでなく、文と文の関係や、一つの情報単位として段落全体を理解することが問われる。複数の事柄が記述されているときに、それらがどのように展開したり、収束したりするのかという視点を持って、情報の流れを整理しながら読み進めるよう指導することが大切である。

趣旨

ダイアローグの内容について理解を問う。会話の種類には、知り合い同士の会話（家族，友人，生徒・学生，社会人等）や初対面の相手との会話（買い物，教育機関，公共機関等）がある。

出題形式の見本 ※今回分析している問題とこの見本問題の内容は関係ありません。

対話を聞き、その質問に対して最も適切なものを1,2,3,4の中から一つ選びなさい。

**放送部分**

F: Good evening, sir. May I help you?

M: Yes, please. I need two rooms for tonight.

F: I'm sorry, sir. We have only one room free.

M: Oh, I see. OK, we'll try another hotel.

**Question:**

**What will the man do?**

**印刷部分**

- 1 He'll take one room.
- 2 He'll go to a different hotel.
- 3 He'll see both rooms.
- 4 He'll stay one more night.

## 分析結果と課題

(英語能力判定テスト 筆記・リスニングテスト **リスニング パート1**)

No. 12)

- 本設問は、店員と客との会話から出題されており、客の目的を理解することがポイントとなっている。正答率は 44%であった。質問文がやや抽象的であったため、会話全体の理解が必要な問題であった。

## 学習指導に当たって

- 店員や従業員などと客との会話は教科書等のリスニングにおいても定番の一つであり、この種の聞き取りにおいては個別の情報(例: サービスや物の値段や条件等)が対象となることが多い。しかし、本設問は会話全体の理解が必要な問題であった。個別の情報の的確な聞き取りの指導に留まらず、会話がどのような目的で行われているのか、会話がどのように展開しているのかという全体的な視点での内容把握を促す指導を併せて行うことが大切である。

趣旨

モノローグの内容について理解を問う。種類としては、日常生活の出来事に関する描写や説明、アナウンスやメディアから流れる情報や説明、事実に基づく情報や説明（ミニ・レクチャー）がある。

出題形式の見本 ※今回分析している問題とこの見本問題の内容は関係ありません。

英文を聞き、その質問に対して最も適切なものを1,2,3,4の中から一つ選びなさい。

放送部分

Mr. and Mrs. Sato have a four-year-old son. Two months ago, they moved into a new house with a backyard. Last week, the son asked his mother if they could get a dog. At first, she thought having a pet would be good for her son. However, she became worried that he was not old enough to take care of a dog. She decided to tell him that he could have one when he became older.

Question:

Why did Mrs. Sato say that her son could not get a dog?

印刷部分

- 1 She thought dogs would be very noisy.
- 2 She thought he was too young to look after a dog.
- 3 She thought having a dog would cost a lot of money.
- 4 She thought the backyard was not big enough for a dog.

## 分析結果と課題

(英語能力判定テスト 筆記・リスニングテスト **リスニング パート2** No. 29)

- 本設問は、あるテーマに関する説明を扱ったもので、正答率は34%と低めであった。選択率の高かった誤答は、問題文で使われている語句がそのまま用いられているのに対して、正解の選択肢では問題文中の表現が言い換えられていた。このことから、問題文の理解が不十分のまま、断片的に聞こえた語句が含まれている選択肢を選んだ可能性が高い。

## 学習指導に当たって

- 断片的に聞こえる語句だけに基づいて、内容全体を推測するという学習者がしばしば見受けられる。このような学習者は、基本的な語句においても、その音と意味が十分結びついていないことが考えられる。新出語句の導入等において、見れば分かるという段階に留まらないよう、音と意味を結びつけて指導することが大切である。また、言語活動を行う際に、同様の意味を表す異なる表現を取り入れたりして、表現の幅を広げる工夫をすることも大切である。

## (2) GTEC for STUDENTS をベースした試験

### GTEC for STUDENTS リスニング パート A

#### 趣旨

#### *Identify a Description of a Photograph*

与えられた視覚的情報をもとに、ある状況や場面、事物を描写した複数の英文の中から正しいものを聞き分ける力を測定する。誤答選択肢は視覚的情報に関連しているが、描写内容の一部や細部が不適切な内容。

**出題形式の見本** ※今回分析している問題とこの見本問題の内容は関係ありません。

#### 放送部分

6.

[A] The junior high student is checking for a book on the shelf to find the capitals of some foreign countries.

[B] The junior high students are copying maps of foreign countries out of a school library book.

[C] The junior high student is pointing out the capital of a foreign country on a map in the book.

#### 印刷部分

6.



[A]  
[B]  
[C]



### 分析結果と課題

- 複数の人物が写っている写真を見て、その状況を適切に表現した英文を選ぶ問題。正解率は 57.1%であった。
- 断片的な情報を聞き取ることができているが、情報の全体像を聞き取ることに課題がある。描写の一部のみが記述された誤答の選択率は 28.6%と、不正解者の 3分の 2 を占めた。

### 学習指導に当たって

- 場面を描写する力や、登場人物の心情や行動の理由など、詳しい描写をする力をつける指導の充実
  - その場にどのような物があるか、登場人物が何をしているか、複数の登場人物の関係や気持ち、どのような目的でその行動を取っているのか等、ペア・ワークで問いを作成して答えるような活動を工夫することができる。
- 多様な表現を使う活動の充実
  - ペア・ワークやグループ・ワークの機会を多く設け、相互に説明したり質問したりするなどして、既習の語彙や表現を適宜、活用できるようにする活動を行うことが重要である。

GTEC for STUDENTS リスニング パートB

趣旨

*Choose the Most Appropriate Response to a Question*

会話の中で不意になされる「問いかけ」に対する適切な応答英文を素早く判断できる力を測定する。誤答選択肢は「問いかけ」への回答として齟齬があったり、情報不足となったりしている内容。

出題形式の見本 ※今回分析している問題とこの見本問題の内容は関係ありません。

放送部分

18. Where do you usually go on vacation?  
[A] My parents take us all to the country.  
[B] My entire family goes on vacation every year.  
[C] After graduation, I expect to travel to other countries.

印刷部分

18. [A]  
[B]  
[C]

### 分析結果と課題

- 話者Aの旅行に関する質問に対する話者Bの回答として適切なものを判断する問題。話者Aの質問に対して、正解以外の選択肢は、旅行に関する説明ではあるが、回答としては不適切なものであった。正解率は64.3%であった。
- 質問の内容を正しく理解し、素早く適切に対応することが求められるが、質問自体の聞き取りもしくは理解に課題がある。

### 学習指導に当たって

- 聞き取りの力を高める活動の充実
  - 質問を聞き、その内容を理解する力をつけることができるように、基本的な語彙や表現を聞いて理解することが必要である。また、その理解を定着させるために、生徒が基本的な語彙や表現を実際に使用する活動を充実させることが必要である。
- 多様な表現方法を体験する活動の充実
  - 質問に対する回答パターンは単一ではないことを理解し、同じ質問であっても多様な返答が可能であることを理解しておくことが重要である。
  - 具体的には、定型表現が用いられた受け答えを理解した上で、それ以外の可能な返答も考えて、ペア・ワークを行うことが重要である。

趣旨

*Solve Problems in Real-World Listening Tasks*

日本語で事前に与えられる状況設定及び視覚的情報（イラストや図表等）と音声情報（ダイアログやモノログ）から、その場面で求められる課題を解決する力を測定する。誤答選択肢は視覚的情報、音声情報に即しているが、必要な課題解決の解答として不適切もしくは不十分な内容。

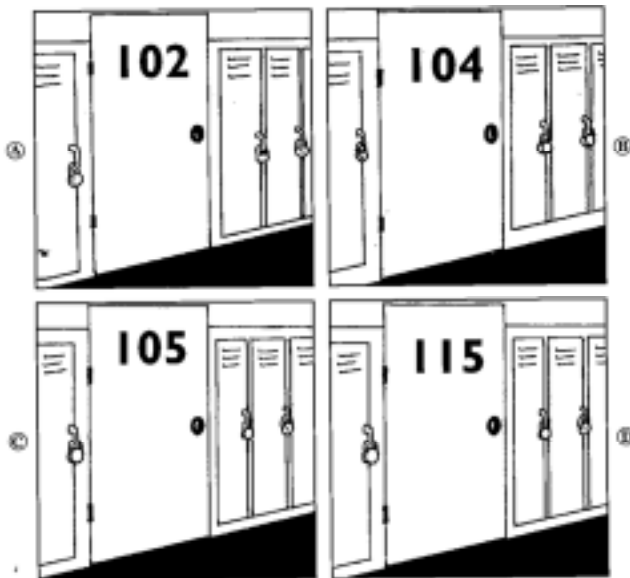
出題形式の見本 ※今回分析している問題とこの見本問題の内容は関係ありません。

放送部分

M: The English test is this afternoon at 1:15. Go to room 104 for the test. But first, leave your belongings next door, in room 105. Remember to take two pencils with you.

印刷部分

あなたは、アメリカに来ている交換留学生です。英語の特別テストについて、先生が話していることを聞きなさい。



21. Where will you put your things before you take the English test?
- [A] A
  - [B] B
  - [C] C
  - [D] D

### 分析結果と課題

- ある指示の内容について説明された後、その指示によるとどう行動すべきかを問う問題。正解以外の選択肢は、指示された内容と異なるものであった。正解を選択するには、指示を聞いて、細部の情報を理解している必要がある。正解率は31.0%であった。
- 情報を部分的に聞き取ることはできているものの、説明を詳細に理解することに課題がある。

### 学習指導に当たって

- 一定の状況設定のもとで、内容を推測しながら、課題解決する活動の充実
  - 例えば、病院で医師から服薬の指示を聞いたり、学校で先生から教室移動の指示を聞いたりするというような状況設定がなされた中で、どのような情報が指示されるのかをあらかじめ予測し、内容を推測しながら情報を聞き取る姿勢を養うことが重要である。
  - ペア・ワークやグループ・ワークを行い、話し手が説明した内容が聞き手に正しく伝わったか、また、聞き手は話し手の説明を正しく理解できたかを相互に確認する機会を設けるなどして、既習の語彙や表現を柔軟に活用できる機会を与えることが重要である。

GTEC for STUDENTS リスニング パートD

趣旨

*Listen for Specific Information in Dialogues/Monologues*

事前に与えられた英語の質問に答えるために必要な情報を、放送英文の中から引き出す力を測定する。誤答選択肢は放送英文の内容に関連しているが、英語の質問に答える情報として不適切もしくは不十分な内容。

出題形式の見本 ※今回分析している問題とこの見本問題の内容は関係ありません。

放送部分

Thank you for calling the Bay City Public Library. All our phone lines are currently busy. Normal business hours are Monday through Friday, 10:00 a.m. to 6:00 p.m.; and Sundays, noon to 5:00 p.m. Next Saturday we are closing at noon for the holiday and will reopen the following Wednesday. You are always welcome to leave books in our drop box.

印刷部分

40. Why didn't a person at the library answer the phone?
- [A] Because it's a holiday and the library is closed
  - [B] Because it's after business hours and the library is closed
  - [C] Because all of the library phones are already being used
  - [D] Because the people are busy getting books from the drop box

### 分析結果と課題

- 電話の自動音声メッセージ（99 語）に基づいた問題。自動音声メッセージでは、具体的な時間等が詳しく説明される。正解以外の選択肢は、英文の一部が情報を正しく反映していないものであった。正解率は 36.4%であった。
- 一方的に説明される文章を理解することに課題がある。

### 学習指導に当たって

- 必要な情報を聞き取る力を高める活動の充実
  - 多様な題材を用いて、その要点、詳細、内容の展開等を理解する指導を充実させる必要がある。
- 発話の目的や意図を的確に理解しながら、課題解決する活動の充実
  - 解決すべき課題を明示し、その目的を達成するために必要な情報を取捨選択したり、伝達したりするなど、目的や意図を意識した言語使用ができる活動を工夫することが必要である。

趣旨

*Understand / Infer Vocabulary Used in Context*

英文が表す意味に基づいて、最も適切な語彙を選択することができる力を測定する。誤答選択肢は、文法的・形式的には単純に排除することができないもの。

出題形式の見本 ※今回分析している問題とこの見本問題の内容は関係ありません。

13. Yesterday my mother asked me to remove some big rocks from our yard. Some of them were stuck in the ground, but I \_\_\_\_\_ them out.

- [A] dug
- [B] buried
- [C] covered
- [D] kept



### 分析結果と課題

- 短い文章の中の1語となる適切な語を選択する問題。正解率は57.1%であった。
- このパートでは、14の設問に7分間で回答することが求められる。前半の各設問の無回答率は低いものの、後半の3問では無回答率が10%を越え、最も高いものは14.6%であった。
- 英文の意味を理解して適切な語句を選択することは、相当数の生徒ができています。しかし、時間をあまりかけずに素早く選択することに課題があり、解答時間が不足した生徒があった。

### 学習指導に当たって

- 文脈に応じて必要な語彙を活用する指導の工夫
  - 語の持つ意味や、語により表される状況を、例えば、視覚情報等と組み合わせるなど、立体的に理解できるように指導することが大切である。
  - 言語の使用場面や言語の働きを扱う際に、多様な語句を取り入れたり、別の語彙を用いて言い換えたりするなど、活動を工夫することが大切である。

趣旨

*Scan for Key Details in Authentic Materials*

与えられた英文の素材に対して、短時間で必要な情報を引き出す力を測定する。誤答選択肢は英文素材の記述に即しているが、必要な情報として不適当な内容のもの。

出題形式の見本 ※今回分析している問題とこの見本問題の内容は関係ありません。

**www.springfieldreads.org**  
**Springfield Public Library's New Website**

Learn more about our many resources by clicking on any of the categories (Books, Videos, etc.) listed below.

**Library Open Hours**  
8:30 a.m. to 7:30 p.m. Monday-Friday  
9:30 a.m. to 2:00 p.m. Saturday  
Closed Sundays and Holidays

**Materials you can borrow for up to two weeks**  
We no longer do searches for you by telephone. Please click on any of the words listed below each category (for example, Adult Fiction, Books on Tape, General Interest Magazines) to see the on-line lists of library materials.

**Books**  
Adult Fiction  
Adult Nonfiction  
Children's Fiction  
Children's Nonfiction

**Videos**  
Movies  
"How-to" Videos  
History Videos  
Nature Videos

**Tapes**  
Books on Tape  
Music on Tape

**Materials you can read at the library but not borrow**

**Magazines**  
General Interest Magazines  
Children's Magazines

**Newspapers**  
Local  
National  
International

For additional information, you may call us at 213-642-9883 or e-mail us at  
springfieldlib@state.org

23. According to this Website, at 9 a.m. the library is \_\_\_\_\_.

[A] always open  
[B] open, except on weekends and holidays  
[C] usually open, except Sundays  
[D] usually closed

### 分析結果と課題

- 案内や広告などの提示文書から情報を読み取る問題。提示文書には、サービスの内容等が示されており、設問に答えるためには、提示された文書から必要な情報を注意深く読み取ることが求められる。正解率 34.9%であった。
- 正解にたどりつくためには、提示文書中の、ある特定の情報に気付く必要があった。
- 限られた時間内に、広い範囲から必要な複数の情報を探すことに課題がある。
- このパートでは、14 の設問に 14 分間で回答することが求められる。前半の各設問の無回答率は低いものの、後半の 4 問では無回答率が 10%を越え、所定の時間内に解答し終えることができなかった生徒が多くいた。

### 学習指導に当たって

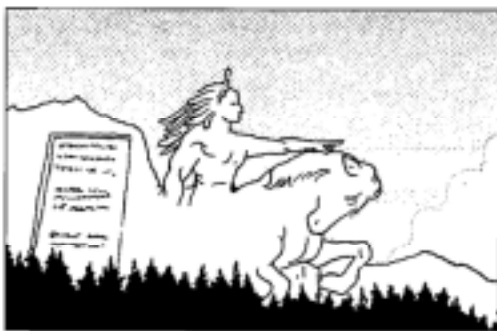
- 目的に応じて資料を的確に読み取ったり、課題解決のために資料を活用したりする活動の充実
  - 与えられた題材の中から必要な情報を読み取るために、時間、場所、金額、適用条件などの特定の情報に着目するなどして、さまざまな切り口から資料を読み取ることができるように指導する必要がある。
- 資料の目的を意識させ、必要な情報を読み取る指導の工夫
  - 本、新聞、雑誌など、多様な手段を通じて情報などを得たり考えたりする活動の場面を設定することが大切である。
  - 生徒の理解の程度に応じて、単一要素から判断できるものや、複数要素が関わるもの、必要な情報が集中しているものや点在しているもの等を取り混ぜるなど工夫することが重要である。

## 趣旨

*Correctly Comprehend Various Aspects of Different Types of Passages*

複数のテキストタイプ（人文社会科学や自然科学分野の論述文、物語文等）のまとまった量の英文を読んで、英文の趣旨やより詳細な部分の要点理解ができる力、また英文を理解し、必要な情報を読み取る力を測定する。誤答選択肢は英文の記述内容に即しているが、中核的な要点ではないもの、あるいは、情報として不適当なもの。

## 出題形式の見本 ※今回分析している問題とこの見本問題の内容は関係ありません。



The Ziolkowski family in South Dakota is trying to turn a mountain into a statue. The mountain is Thunderhead Mountain, and the image is Crazy Horse, a proud Native American leader. The plan is to remove rock, by blowing it up with dynamite, to make a statue of an Indian man on a horse. When the artists finish, the

statue will be about 170 meters high, the largest sculpture on Earth.

The work started about fifty years ago. The Sioux Indians wanted to build a monument to honor their greatest leader. They looked for the right artist. They chose Korczak Ziolkowski as the sculptor for their statue. Korczak was an American artist from the eastern part of the United States who had experience with mountains. He had worked on Mount Rushmore, another mountain monument. For the Sioux monument to Chief Crazy Horse, Korczak worked away at Thunderhead Mountain for forty-four years.

Korczak was an unusual person. He wore the big hat, leather vest, blue jeans, and boots of a cowboy. He loved music, his horse, and good conversation. His work was not really hard work because he loved it. Korczak knew that this work would take more than one lifetime. That is why he taught his ten children to love the idea of this monument.

The sculptor died in 1982, but now seven sons and daughters and his wife Ruth carry on. Casimir Ziolkowski follows the directions of his mother. She follows Korczak's plan for the monument. Recently, Casimir completed the head of the Indian leader. It is 26.9 meters high. Part of the horse is also finished. A five-room house could fit into each side of the horse's nose.

So far the Ziolkowskis have worked for fifty years on Thunderhead Mountain. They have cut away eight million tons of rock. No one knows how long it will take to complete the statue. Each day, however, brings it one day closer to being finished.

32. According to this passage, Korczak taught his children to love the idea of the statue because \_\_\_\_\_.
- [A] he wanted them to love music and good conversation
  - [B] he taught them to understand why he loved to cut away rocks
  - [C] he realized that they were also Sioux Indians
  - [D] he would not live long enough to complete the work

### 分析結果と課題

- ある人物の生い立ちと仕事について書かれた文章を読み，成し遂げた仕事はどのようなものであったかを問う問題。該当する情報がどこにあるかを把握した上で，その部分の要点を正しく読み取ることが求められた。正解率は28.0%であった。
- 選択肢中の語彙が本文中に同じ形で表れている誤答選択肢を選びがちである。元の情報と同趣旨だが表現が言い換えられたものを選び取ることに課題がある。
- ある程度の分量の英文の中から，目的や意図を意識して必要な情報を読み取ることにより課題がある。

### 学習指導に当たって

- 文章の全体構成をつかむための指導の工夫
  - 英文を日本語に訳さずに読み取ることを実感できるように，易しい英語で書かれた文章を多く読むことを日頃から体験させることが重要である。そのためには，多読用教材を用意し，生徒が自由に読み，感想や意見を伝え合う機会をつくるなどの環境整備も進める必要がある。
  - 文章には目的に応じて様々な構成が使われることを知るためにも，多様な構成の英文に触れる機会を持てるように指導する必要がある。
  - 固有名詞や既習ではない表現等，理解できないところがあっても，前後の文脈から意味を推測するなどして読み進める力を養成する必要がある。
- 英文を英語の語順のまま速く読み進めるための活動の充実
  - 文章の全体構成をつかみ，段落ごとの要点を把握できるように指導する必要がある。また，理解の速度を高めるために，一定の時間内にできるだけ多くの分量の英文を読む経験を積ませる必要がある。
- 読み取った内容を別の言葉に言い換えて説明する活動の充実
  - 読み取った内容の概要や要点を理解した上で，別の言葉で言い換える等，語彙や表現を柔軟に活用できるように指導する必要がある。

GTEC for STUDENTS ライティング

趣旨

*Express Your Opinion about a Theme with Reasons to Support Your Ideas*

日本語で与えられたトピックに対して、自分の意見を、その意見の背景となる理由などを述べながら展開できるかどうかを測定する。

出題形式の見本 ※今回分析している問題とこの見本問題の内容は関係ありません。

あなたは授業中に、下記のテーマで英語のエッセーを提出することになりました。

**エッセーのテーマ**

若者の活字離れが問題となっていることについて、あなたはどう思いますか。あなたの意見とその理由を書きなさい。

## 分析結果と課題

- テーマに対する自分の意見とその理由を表現する自由記述形式の問題。限られた解答時間の中で、自分の考えに説得力を持たせて表現する力が求められる。
- 与えられたテーマに対しての意見やその理由、経験、具体例などを複数の文で書くことは相当数の生徒ができている。
- "I agree/disagree with this."という文で書き始めており、その文だけでは意見が伝わりづらい答案がやや多く見受けられた。"this"が表す内容は、答案全体からわかるものであったが、自分の立場をはっきり明示する表現を使って書き始める必要がある。
- 「序論」(Introduction) ⇒ 「本論」(Body) ⇒ 「結論(まとめ)」(Conclusion) といった文章構成を意識して書くことには課題がある。特に、多くの生徒が、序論で主張を明記できていない。
- スコア0の答案(白紙、または数語以下しか書いていないもの)が、全体の3.7%あった。

## 学習指導に当たって

- 書く体験を積ませる指導の充実
  - 初めは1行でもかまわないので、ほぼ毎日書くように指導する。英文の間違いを直すことよりも、その内容に対して英文でコメントを書き、生徒がコミュニケーションを実体験して、書くことに対する意欲を維持できるように工夫する。
  - 書く過程において、互いの原稿を読んで感想を述べ合うといったペア・ワークやグループ・ワークを行うことも重要である。
  - 書き終わった文章に問題がないか、読み直して点検する習慣をつけるように指導する必要がある。
- テーマに基づいてアイデアを連想する活動の工夫
  - 英文を書く前に、どのような内容について書くのか、どのような構成で書くのか等を考えるために、与えられたテーマについて、思いついた事象や考えを書き出すなど、できるだけたくさんアイデアを出す練習をすることが必要である。
  - テーマから想起されることを出し、そこから連想されるアイデアを出すというように発想を広げ、さらに内容的につながりがあるアイデアを組み合わせるなどして、自分の考えを整理するといったような活動も考えられる。
  - ペア・ワークやグループ・ワークの機会を設け、相互に説明したり質問したりするなどして、知識を掘り下げたり発想を広げたりする活動を充実させる

ことが重要である。

- 文と文とのつながりを意識する指導の工夫
  - 感想や意見を書く場合は、その後にその理由や根拠となる事実を続けて書いたり、ある出来事について書く場合は、それが起きた原因やその前後に起きた出来事を併せて書いたりするなど、文と文とのつながりを意識させる課題を与えるなど工夫することができる。
- 文章構成を意識して書く活動の充実
  - まず文章を書き、その文章を文または段落単位で切り取り、生徒同士で交換し、元に戻せるかどうかを試みることで、文章構成が適切かどうかを確認する活動などを工夫することができる。
  - 「序論」(Introduction) ⇒ 「本論」(Body) ⇒ 「結論(まとめ)」(Conclusion)といった基本構成を意識させたり、「本論」の部分で複数の観点や考えを書いたりできるよう指導することが重要である。



### (3) 授業アイデア例

#### ○「聞くこと」の指導例（作成者 山形県立楯岡高等学校 柴田まり教諭）

##### 【指導のねらい】

情報量の多い英文を題材として、主に「聞くこと」の指導を通して、その情報がどのような目的で伝えられているかを理解した上で概要や要点を把握できるようにする。

##### 【単元における主な言語活動】

第1時	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「聞くこと」及び「話すこと」中心</li> <li>・オーラル・イントロダクションに続いて、単元全体の要約文を聞く。</li> <li>・単元全体の話題や概要など、聞き取った内容についてペアで話し合いながら確認する。</li> </ul>
第2時 ～ 第5時	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「聞くこと」中心</li> <li>・パートごとに英文を聞き、与えられた英文の中から各パートの話題や概要を最も適切に表しているものを選ぶ。その際、必要に応じて語彙指導を行う。</li> <li>・提示された質問を読んで、聞き取るべきポイントを確認する。その後、英文を聞いて、要点を捉える。</li> <li>・要点を確認するために、場所を絞って英文を読む。</li> <li>・教科書を閉じ、再度パートごとに英文を聞いて、キーワードをメモする。その後、メモを参考としながら、各パートの内容を口頭で要約する。</li> </ul>
第6時 ～ 第7時	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「書くこと」及び「話すこと」中心</li> <li>・本文の内容に関して与えられたテーマについて、自分の意見や考えを論理的に整理して書く。</li> <li>・ペアになって自分の意見を発表する。聞き手は必要に応じてメモをとり、理解できなかった部分については質問をする。</li> <li>・ALT の意見を自分の意見と比べながら聞き、自分の意見を考え直したり、さらに説得力のあるものにまとめ直したりする。</li> </ul>

##### 【授業アイデア例】（上記第1時～第5時の「聞くこと」を中心とした授業）

- 1 使用教材 「アイガモ農法」に関する説明文
- 2 対象学年 第2学年

##### 〔第1時〕

##### ① オーラル・イントロダクション

アイガモの写真等を使い、生徒との英語でのインタラクションを通して、アイガモが意外な使われ方をすることに興味を持たせる。その際、次に行われる聞き取りにおいて必要な単語をできるだけ使用し、生徒がそれらの意味を推測できるように他の単語で言い変えたりしながら導入する。

##### ② 要約文のリスニング

教師が作成した各パートの中心となる情報に絞った要約文を ALT が読む。生徒は、キーワードをメモしながら聞きとる。



## ○「話すこと」の指導例（作成者 千葉県立長生高等学校 百瀬美帆教諭）

### 「話すこと」における指導上の留意点

- ① 自己紹介のように、生徒にとって身近な話題でコミュニケーション活動をスタートすることで、英語を話すことに対する生徒の不安を軽減する。
- ② 生徒が互いに共有している情報ではなく、**information gap** が起こるように活動を設定し、生徒が話したい、話さなければならない場面を作り出す。
- ③ 各活動について、日本人教師がロール・モデルとして、生徒と同じタスクをどのように解決するかを具体的に示す。
- ④ 教師は生徒の理解の程度に応じた英語を用いるよう配慮するが、特に「話すこと」においては、生徒が「すべては聞き取れなくても概要・要点は把握できるレベル」を意識する。
- ⑤ 原稿を暗記して話すだけの活動では、即興で応答する力や、考えをまとめながら話す力を育成することは困難である。話す活動が生徒に苦痛を与えないよう配慮しつつ、特に初期段階では、キーとなる語句や表現をメモしてから話すといった活動を取り入れるようにする。

### 【指導のねらい】

自己紹介及び人物紹介をテーマとして、主に「話すこと」の指導を通して、作成したメモに基づいて情報や考えなどを適切に伝えることができるようにする。

### 【単元における主な言語活動】

単元：自己紹介及び人物紹介（全2時間）	
第1時	自己紹介：自己紹介のリスニング ⇒ ノート・テイキング ⇒ 口頭要約 ⇒ ライティング
第2時	人物紹介：資料のリーディング ⇒ ノート・テイキング ⇒ プレゼンテーション ⇒ 意見交換

### 【授業アイデア例】

時間	生徒の活動	指導上の留意点
1	(1) 教師によるモデル自己紹介を聞いて、活動の手順を理解する。 (2) グループになり、即興で自己紹介をする。 (3) 友人の自己紹介を聞いてメモをとる。 (4) メモに基づいて質問し、回答もメモする。 (5) グループを変え、上記(3)及び(4)で得た友人に関する情報を、決められた形式で要約して発表する。 (6) クラス全体に友人を紹介する。 (7) (5)で発表した内容を、構成や表現に注意しながら書く。	-ワークシートに従って手順を説明する。ティーム・ティーチングの場合には、一方の教師が黒板にメモを取り、(3)～(5)で活用する。(☞③) (板書例) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">Midori Junior High School, soccer, ○ → P.E. × → English</span> -発話に誤りがあっても訂正せず、活動を円滑に進める。(☞⑤) -上記の板書を利用し、質問例を示す。(☞③) (例) Why did you dislike English? -最初のグループで得た情報が、新しいメンバーにとっては未知の情報となる。(☞②) -モデル提示の際、要約の形式や発表に必要な表現を板書する。 -自発的な発表者を募る。 -内容に応じて現在形、過去形などの時制を使い分ける必要があることを確認する。

○ 1 時間目に使用するワークシート例 (一部)

☞ Listen to your teacher and friends. Take notes below after each speech.

[Your teacher]	[ (Name) ]	[ (Name) ]
Information:	Information:	Information:

☞ Summarize your friend's speech.

○ Topic (Who) : Let me introduce...

○ Body (His/Her junior high school days) : She's from... She belonged to...  
(At high school) : She wants to ...

生徒が話す際の構成を意識できるようにする。

時間	生徒の活動	指導上の留意点
2	<p>(1) 教師による人物紹介のスピーチを聞いて、感想を述べる。</p> <p>(2) ペアになり、ある人物について書かれた英文を読む。その後、紹介したい情報に下線を引いて、発表用メモを作成する。</p> <p>(3) ペアで、読んだことに基づいて、人物紹介の際に用いる視覚資料を作成する。</p> <p>(4) パートナーと発表分担を決め、メモを見ながら練習する。</p> <p>(5) 別の資料を持つペアと組んでグループを作り、人物紹介を行う。</p> <p>(6) 相手のペアが発表した内容や方法について、感想や意見を述べる。</p>	<p>－生徒がよく知る人物について視覚資料を用いて紹介し、感想を求める。その際、感想を述べるための表現を示す。(☞①③)</p> <p>－2種類の英文資料1, 2を用意し、クラスで半分のペアが資料1, 残り半分のペアが資料2を持つようにする。</p> <p>－視覚資料を使用する目的や方法を説明する。</p> <p>－発表者が難しいと判断した語句を、資料からそのまま引用しないよう指導する。(☞⑤)</p> <p>(例) (2): ペアA→資料1, ペアB→資料2 (5): ペアAとペアBでグループ活動 (☞②)</p> <p>－感想や意見を述べる活動を通して、積極的に聞く態度と即興で応答する力を育てる。(☞⑤)</p>

\*この後の展開として、グループごとに「世界で活躍する日本人」等についてリサーチして発表する。

○ 2 時間目に使用するワークシート例 (一部)

☞ Read the following passage.

**Shinya Yamanaka**

Born on September 4, 1962, Shinya Yamanaka is a Japanese physician and researcher of adult cells. He works as the director of Center for iPS Cell Research and Application and a professor at the Institute for Frontier Medical Sciences at Kyoto University. In 2012 he and John Gurdon won the Nobel Prize for the discovery that adult cells can be changed into stem cells. He likes sports. In 2011, he joined...

発表時に資料を見ないようにこの線で折って使用する

☞ Take notes below and prepare for your presentation.

▷ Who: Shinya Yamanaka, researcher of adult cells

▷ What he/she does: research iPS cells

▷ Details: the Nobel Prize in 2012, sports (running)

▷ What you think of him/her: impressed ← ran to raise money for iPS research

最後に感想や意見を話し合う。

## ○「読むこと」の指導例（作成者 宮城県石巻高等学校 今野敦子教諭）

### 【指導のねらい】

主に「読むこと」の指導を通して、情報量の多い英文を与えられた時間内に英語のまま理解し、概要や要点を把握できるようにする。また、読み取った内容を別の言葉で言い換えたり、言い換えられた内容を理解したりできるようにする。さらに、様々な媒体で用いられている英語に触れる機会を与え、スタイルの異なる英文に慣れさせる。

### 【単元における言語活動の概要】

第1時	<p>○「読むこと」及び「話すこと」中心</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オーラル・イントロダクションに続いて、教科書本文について背景知識を得ることができる英文を指定した時間内で読み、ワークシート上の質問に答える。            〈☞ 限られた時間内に一定量の英文を読んで理解できるようにするための指導〉</li> <li>・ペアでQ &amp; Aを行いながら解答を確認し、内容に関して理解を深める。</li> </ul>
第2時 ～ 第5時	<p>○「読むこと」及び「話すこと」中心</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オーラル・イントロダクションに続いて、指定した時間内で教科書の本文全体あるいは1パートを読み、ワークシート上の質問に答える。            〈☞ 限られた時間内に一定量の英文を読んで理解できるようにするための指導〉</li> <li>・キーワードを用いて、本文の概要を表す簡単な要約文を作る。            - ペアになり、自分で抜き出したキーワードが書かれたワークシートのみを見ながら、互いに口頭で要約を発表する。            - キーワードのいくつかを、他の言葉に言い換えて内容を表現する。            - 相手の言い換えを聞いた後、さらに自分の言葉で内容を繰り返す。            〈☞ 読み取った概要や要点を別の言葉で言い換えて表現するための指導〉            〈☞ 英文内容が別の言葉で言い換えられたときに理解できるようにするための指導〉</li> <li>・True-False Questions や Q &amp; A を通して、より詳細な情報を把握する。            〈☞ 情報量の多い英文を読み、英語を英語のまま理解できるようにするための指導〉</li> <li>・本文の内容が会話やインタビューなど様々な形式に置き換えられたワークシートを用い、ペアやグループで対話練習をした後、発表する。            〈☞ 読み取った概要や要点を別の言葉で言い換えて表現するための指導〉            〈☞ 英文内容が別の言葉で言い換えられたときに理解できるようにするための指導〉</li> </ul>
第6時 ～ 第7時	<p>○「読むこと」、「話すこと」及び「書くこと」中心</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本文の内容理解を深めるため、個人あるいはグループでリサーチをした後、プレゼンテーションを行う。その際、本・雑誌・インターネットなどから2種類以上の媒体を用いることとする。プレゼンテーションでは、写真や絵などの視覚資料の活用を奨励するとともに、発表時はできるだけ原稿を見ないように指導する。            〈☞ 多様な媒体の英文を読み、必要な情報が得られるようにするための指導〉</li> </ul>

### 【授業アイデア例】（第1時～第5時の「読むこと」を中心とした授業）

- 1 使用教材 「情報伝達手段の発展」に関する説明文
- 2 対象学年 第2学年

[第1時]

- ① オーラル・イントロダクション
- ② 教科書本文について背景知識を得るための、初見の英文読解
  - (1) 「電話の発明」に関する説明文を配付し、指定した時間内に読ませる。
  - (2) ワークシート上に書かれた質問に答えさせる。
    - ※質問は、要点や概要を把握するための簡単なものにする。
    - ※解答欄（\*）には、文章ではなくキーワードのみを記入するように指示する。
  - (3) 上記(2)の質問の英語とキーワードを参考に、英文の内容を要約させる。

(ワークシートの例)

Questions	Answers (*)
1. Who invented the telephone?	Alexander Graham Bell
2. When was the telephone invented?	in 1875
3. What did people use to communicate before the telephone was invented?	telegraph

[第2時～第5時]

- ① オーラル・イントロダクション
- ② 教科書本文の読解—様々な形で本文を繰り返し読み、内容理解を徐々に深めていくための指導
 

<パターンA>

  - (1) 指定した時間内に本文全体を読むように指示する。
  - (2) ワークシートに、「電話の発明以前に使われていた通信手段」と「電話の発明以後に誕生し、現在まで使われている通信手段」及びそれぞれの利点と問題点を書かせる。ただし、記入はキーワードのみとする。
  - (3) ワークシートに書いた語句を用いながら、本文の内容を口頭で文章にして発表させる。

(ワークシートの例)

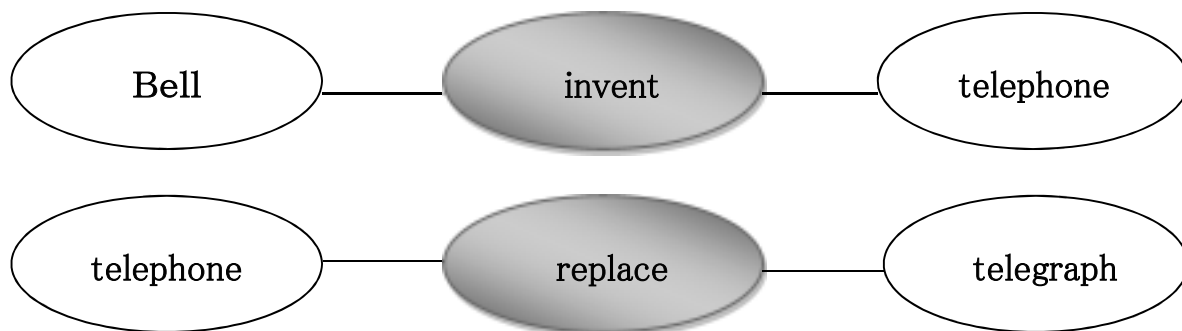
<u>Before</u> the telephone was invented]			<u>After</u> the telephone was invented]	
	Advantages:	→		Advantages:
	Disadvantages:			Disadvantages:
	Advantages:	↔		Advantages:
	Disadvantages:			Disadvantages:

<パターンB>

- (1) 本文の一部分あるいは1パートを指定して読むように指示する。
- (2) 下記のようなワークシートに、内容を要約するためのキーワードを書く。その際、動詞は原形、名詞は単数で記入するよう指示する。

- (3) ペアになり，冠詞・前置詞・副詞・接続詞などを補いながら，口頭で要約する練習をさせる。
- (4) 網掛けの部分に書いた語を，別の語で言い換えて文章を作らせ，内容が伝わっているかどうかをペアで確認する。

(ワークシートの例)



## ○「書くこと」の指導例（作成者 茨城県立佐竹高等学校 園部尊礼教諭）

### 「書くこと」における指導上の留意点

- ① 生徒が無理なく「書くこと」の活動に取り組めるようにするため、単元の目標からさかのぼって段階的な指導を行うことができるように全体の活動を計画する。（☞下記第1・2時）
- ② 扱う話題について、教師と生徒がインタラクションを図ったり生徒同士で話し合ったりするなどして、生徒の「書くこと」に対する興味・関心を高めるようにする。（☞下記第1時）
- ③ 英文を書く前に、論理的に書くために必要な情報を聞いたり読んだりする活動を十分に行う。（☞下記第2時）
- ④ 教師が英文を添削するだけでなく、生徒同士でポイントを絞って気付いた点を指摘し合うなど、書いたものを修正する機会を設定する。（☞下記第3時）

### 【指導のねらい】

本単元は、ドードーという鳥の特徴とドードーが絶滅した経緯について書かれた英文である。英文の概要を理解した上で、主に「話すこと」と「書くこと」の統合的な指導を通して、まとまった内容を整理して伝えることができるようにする。

### 【単元における主な言語活動】

第1時	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「聞くこと」及び「話すこと」を中心とした単元全体の概要把握</li> <li>・オーラル・イントロダクションや教師とのインタラクションを通して、単元の概要を理解する。英文の内容と併せて、語彙や構文もオーラル・イントロダクションの中で包括的に扱う。</li> <li>・Q &amp; Aを通して大意を把握する。</li> </ul>
第2時	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「読むこと」を中心とした英文内容の理解</li> <li>・単元全体を読んで、概要を確認する。</li> <li>・ワークシートを用いて、段落ごとの要旨を把握する。</li> <li>・英文全体及び各パートの英文の構成を理解する。</li> <li>・本文で用いられている名詞の言い換え表現など、表現上の工夫について学習する。</li> </ul>
第3時	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「話すこと」から「書くこと」につなげて行う情報発信</li> <li>・単元の内容を要約するとともに、自分の意見や考えを書いてまとめる。</li> <li>・生徒同士で書いた英文を読み、改善点を指摘し合う。各生徒は、指摘された事項を中心に英文を書き直す。</li> </ul>
第4時	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「話すこと」を中心とした発表活動</li> <li>・単元の内容全体について、グループでプレゼンテーションを行う。</li> </ul>

### 【授業のアイデア例】（上記第3時の「話すこと」から「書くこと」につなげて情報発信を行う授業）

- ① グループになり、ドードーに関する SHOW & TELL を行う。ピクチャーカードに描かれたイラストを見せながら、次の2点について、1人1つずつ口頭で情報を出し合う。

< 1回目 > ドードーの特徴について

（発話例）“Dodos were tame and had no fear of humans.”

“Dodos were birds but they were unable to fly.”



< 2回目 > ドードーが絶滅した経緯について

(発話例) “They lost the ability to escape from danger.”

“The humans brought dogs, pigs, and rats with them.”

- ② 1人の発表が終わるごとに、隣の生徒が出された情報を口頭で要約して内容を確認する。その際、わからない点については発表者に質問する。
- ③ 各情報について、グループのメンバー全員でメモをとる。メモは、キーワードを中心とした語句のみの簡潔なものにする。

(メモの例)

The features of dodos	Why dodos became extinct
- <i>tame, no fear of humans</i>	- <i>lost ability to escape from danger</i>
- <i>× fly → easy to catch</i>	- <i>humans ⇒ dogs, pigs...</i>
	- <i>Portuguese sailors ⇒ animals</i>

- ④ グループ内で断片的に出された情報について、次のような視点で、メモを整理する。
  - ・重複している情報を削除する。
  - ・各情報に関するキーワードが抜け落ちていないかを確認する。
  - ・大きな情報から詳細情報へとつながるように、情報の順番を入れ替える。
- ⑤ ペアになり、<ドードーの特徴>→<ドードーが絶滅した経緯>の流れで説明し合う。
- ⑥ 上記⑤で自分がした説明やパートナーから聞いた説明を参考に、次の点に注意しながら、ドードーについて説明する英文を書く。
  - ・第1段落でドードーの特徴、第2段落でドードーが絶滅した経緯を書く。
  - ・1つの文が長くなりすぎないようにする。同時に、短い文の羅列にならないようにする。
  - ・同じ単語や表現を繰り返して使用しないようにする。例えば、同じ名詞を、代名詞や他の名詞で言い換えるなどの工夫をする。
  - ・ドードーについて知識を持っていない人が読んでも理解できるように、読み手の立場に立ってできるだけ平易な表現を用いて書く。同時に、教材中の英文をそのまま使用することは避ける。
  - ・つなぎの表現 (For example, In addition など) を使うなどして、論理的な構成にする。

(英文の例)

[The features of dodos] : *The birds called the dodo once lived on the island of Mauritius. Until the Portuguese sailors visited the island in the 16th century, dodos had been isolated from natural enemies. As a result, they grew friendly, flightless, and fearless of humans. Since they were unable to fly, they were easy to catch. This made dodos easy prey for hungry sailors.*

[Why dodos became extinct] : *Then, animals such as pigs, dogs and rats came along with humans. They invaded dodos' nests and competed for the limited food resources. At the same time, humans destroyed dodos' forest habitats. Eventually, the poor birds were extinct within a century of their discovery.*

- ⑦ グループになり、他の生徒が書いた英文を読んで、上記⑥に示した各ポイントについて peer feedback をする。その際、上手に書いているところや意味が伝わりにくいところなどを、共通の略記号を用いて書き込む。
- ⑧ グループの他のメンバーから受けた指摘事項を検討し、英文を修正する。